

第16回

北海道三曲連盟

定期演奏会



と き：令和8年8月2日(日)

開場9:30～ 開演10:00～

ところ：旭川市大雪クリスタルホール

旭川市神楽3条7丁目 TEL0166-69-2000

主催／北海道三曲連盟

後援／旭川市・旭川市教育委員会・北海道新聞旭川支社

お祝いのことば



旭川市長
今津 寛介

第16回北海道三曲連盟定期演奏会が旭川市大雪クリスタルホールを舞台に盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、道内各地からお越しの参加者並びに御来場の皆様を心から歓迎申し上げます。

貴連盟の皆様におかれましては、創立から50年を越えた現在においても、本演奏会をはじめ、コンクールや各地区協会での演奏会開催を通じて、我が国の伝統文化である三曲の普及・伝承と、北海道における文化・芸術の振興・発展に御貢献をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

我が国の伝統楽器である箏、三味線、尺八からなる音楽は、人々の心に快く響きわたり、幅広い年代の方々に親しまれております。社会が目まぐるしく変化する現代社会において、心の豊かさと癒やしをもたらす三曲の魅力はより一層高まっており、その素晴らしさを次世代へと伝えていく皆様方の活動は大変意義深いものであります。

本日の御出演の皆様には、どうか、日頃の研鑽の成果を十分に発揮され、御来場の皆様を大いに魅了されますことを期待申し上げます。

結びに、本演奏会の御盛会と、貴連盟の限らない御発展、並びに関係の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を心から祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



お祝いのことば

旭川市教育委員会
教育長 和田 英邦

第16回北海道三曲連盟定期演奏会が旭川市で盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

北海道三曲連盟の皆様におかれましては、長年にわたり日本の伝統楽器である箏・三絃・尺八の技術向上と三曲の振興・発展に御尽力され、本市をはじめ北海道における文化芸術の振興に多大なる御協力を賜り、深く感謝申し上げます。三曲が今日まで受け継がれ、その魅力が広く伝えられているのは、保存と伝承のための活動をはじめ、未来を見据えた取組を長年にわたり続けてこられた皆様方の不断の努力のたまものであり、心より敬意を表する次第です。

旭川市は、大雪山・十勝岳連峰の豊かな自然に育まれ、厳しくも美しい四季の中で独自の文化を築いてきました。現在は「音楽のまち旭川」としての取組にも力を入れており、本日、全道各地から皆様にお越しいただきましたことを、心より歓迎いたします。

本日の定期演奏会は、3年に一度、全道の会員の皆様が一堂に会し、日頃の研鑽の成果を披露される貴重な機会と伺っております。日本の伝統的な三曲の美しい響きが、会場の皆様を大いに魅了することを期待しております。

結びとなりますが、北海道三曲連盟のますますの御発展並びに関係者の皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



お祝いのことば

北海道三曲連盟

理事長 長根 雅楽悠美

本日はたくさんの皆様にご来場いただき、心より感謝申し上げます。この演奏会を主催致します北海道三曲連盟は、1973年（昭和48年）7月に創立しましてから53年目を迎えました。道内12の三曲協会が集い、約900名の会員が芸道の向上と普及発展を志として日々研鑽を積んで参りました。箏・三絃・尺八からなる演奏を通じ、日本の良き伝統文化を後世に繋ぐべく努力を重ねているところです。

この定期演奏会は3年ごとに道内各地で開催されてまいりました。今回は旭川です。この地には芸術としての彫刻、彫像が数多くあります。市街の内外、公園そして多くの河川敷にも数えきれないほどの彫刻が展示されておりますが、市民の皆様には何も特別なものを感じておられないかも知れません。それほど普通の光景なのでしょう。私達が携わる三曲の演奏も、極当たり前の音楽、そして日常的に耳にする音楽と感じられる世の中になりましたら、どんなに素敵なことでしょう。

本日は道内各地から多くの会員が集まって稽古の成果を皆様にご披露致します。この演奏会の雰囲気をしっかり味わっていただき、これを機に日本の伝統文化に少しでも目を向けていただければ嬉しゅうございます。お時間のかぎり、ごゆっくりお楽しみください。



ごあいさつ

旭川三曲協会
会長 石塚 琇瑛

本日は、皆様方には何かとお忙しい中、ご来場頂き誠に有難うございます。

第16回北海道三曲連盟定期演奏会をここ旭川の地で開催できますこと大変うれしく思います。この北海道三曲連盟の定期演奏会は、三年ごとに北海道各地で開催されております。この度は旭川三曲協会が主管となりまして、全道の会員の皆様をお招きして日頃の研鑽を発表する演奏会を、旭川大雪クリスタルホールで開催いたします。

旭川の会員は全力を挙げて会の運営に当たり、皆様に満足していただけるよう努力していきたいと思っております。

ご来場の皆様には、全道各地で日頃研鑽を積まれた会員の方々が奏でる邦楽の調べを心行くまで堪能していただきたいと思います。

旭川三曲協会は、10年ほど前から旭川教育委員会のご協力をいただき、「邦楽普及委員会」を立ち上げ、市内の中学校の音楽の授業のお手伝いをさせていただいております。また、音楽の先生方に箏、三味線などの実技研修会もさせていただいております。このような取り組みが、将来邦楽に親しむ心が培っていくことにつながることを願っております。今回は、西神楽中学校の生徒さんに出演していただくことを企画しました。温かい声援をお願いいたします。

終わりに、本日の演奏会に温かいご支援、ご後援いただきました旭川市、旭川教育委員会他関係各位に感謝とお礼を申し上げてご挨拶とさせていただきます。



開催にあたって

第16回全道三曲連盟演奏会
実行委員長 五十嵐 良山

本日はお忙しい中を、ご来場賜りまして誠に有り難うございます。

北海道三曲連盟は本年創立53年目を迎え、3年前に創立50周年の記念演奏会を札幌市にて開催致しました。3年に一度道内の各地三曲協会が持ち回りで演奏会を開催して参りましたが、本年は旭川三曲協会が当番で本日大雪クリスタルホールでの演奏会の開催となりました。

長い歴史の星霜の中で故人となられた多くの先輩諸氏にお世話になり現在がありますが、その御苦勞に対して心からの敬意と感謝を申し上げる次第です。

北海道三曲連盟の草創の頃は三曲の愛好者が大変多く、全道演奏会ともなると混雑を極めたものでしたが、経済至上主義、少子高齢化の現代の世の中にあって会員数は激減、日本の文化や邦楽は社会の片隅に追いやられ、心豊かな日本の情緒は何処へ行ってしまったのでしょうか。

少しでも昔の賑わいを取り戻すべく会員一同微力ではありますが努力致します所存です。どうか皆様には今後とも温かい御声援を賜りますようお願い申し上げます。

この度の演奏会に際し北海道、旭川市など各方面から温かい御後援を頂きました事に厚く御礼を申し上げます。有り難うございました。

暑い夏の日、どうぞ日本の音楽「三曲演奏」をお楽しみ下さい。



プログラム

1. 絹の道 (旭川正派)
2. 残光の彼方へ (帯広)
3. 万華鏡 (札幌 新都山幹部会)
4. 花紅葉 (旭川 宮城、創明)
5. 江の島曲 (札幌 琴友会)
6. 松竹梅 (室蘭)
7. 大海原 (小樽)
8. 春の夜 (釧路)

北海道三曲連盟感謝状授与式

9. 宮城野 (登別)
10. 雪はな (旭川 ジュニア)
11. 千鳥五重想 (北見)
12. 下り葉の曲 (札幌 竹友会)
13. 松虫 (札幌 若菜会)
14. 都踊 (苫小牧)
15. 京みだれ (札幌 絃寿会)
16. 鶴寿才 (旭川 松美会)

尺八・箏・三弦・十七弦のための四重奏曲第四番 絹の道

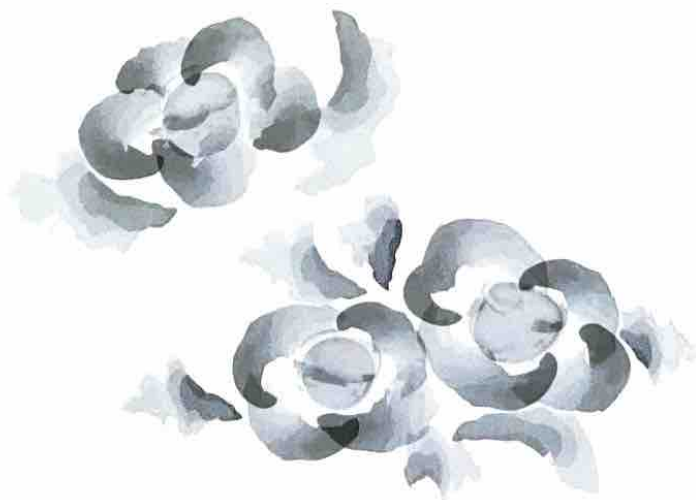
唯是 震一 作 〈旭川 正派〉

箏本手	波橋尾宮長王	岸本田元谷川地	雅雅雅雅雅貞	修朗範香美子	平三遠日土	子谷藤下田	雅楽翠 雅志美 雅楽湖 雅 箏 雅 櫻	佐山岡大三	藤本本保鍋	雅由理 雅裕美 雅峰美 好 子	裕
三弦	松塚市	本野村	雅雅雅	絃裕穂	久保田砂日	田山高	雅苑真 雅麻美	倉中	前西	雅紀惠 雅 慧	惠
十七弦	山山	田田	雅雅	絃生	四月朔月	雅楽奈緒	濱 本	雅楽歩			
尺八	山熊竹	田谷原	香遊福	山山山	坂佐蔵	本々田	秀静敏 山山山	橋村	本田	笙両	山山

《解 説》

標題の「絹の道」は特に深い意味は持っていない。第一楽章の主題をオリエント的な旋律に設定したことから名付けたものである。

三種の弦楽器には、それぞれの伝統的な演奏法が駆使されていて、いろいろな性格の変奏が試みられている。



箏	脇 鈴 上 丹	坂 木 原 羽	真 智 章	弓 子 香 子	内 森 富 安	藤 崎 岡 田	幸 広 己 瑤	子 子 砂 子	山 鈴 長 富	下 木 尾 永	直 悦 真 沙	子 子 里 子 樹
三絃	佐 藤 上 高	野 弘 田 橋	詩 のぞみ 幸 子	子 修 子	吉 小 遊 小 野 寺	田 林 佐 寺	和 恵 加 津 香	恵 子 代 織	松 中 土	浦 坪 橋	百 みゆき 富美子	洋 子 美 子
尺八	鈴 吉 竹	木 見 原	路 青 福	山 山 山	坂 佐 蔵	本 々 木 田	秀 静 敏	山 山 山	橋 千	本 川	笙 迪	山 山

《解 説》

「花紅葉」の曲名の意味は「花(桜)と紅葉」であり、歌詞の第一節は桜、第二節は紅葉を、それぞれめでた内容である。第一節と第二節は全く同じ詩型で、最初の一句を字余りと見なせば、五七五七……五七七という長歌の形であるが、音調は全く七五調で貫かれている。

この二節の歌詞を、前歌と後歌に配し、その中間に長い手事を挿入した三曲合奏の手事物形式の曲である。

箏	大 伊	畑 藤	豊 雅	梢 以	加 小	賀 山	豊 洲 嶺	恵 嶺	藤 石	野 谷	豊 豊	絵 妙 加
三弦	日 向	豊 都	都 純	門 田	豊 純	純						
十七弦	松 谷	豊 薫										
尺八	馬 場	雅 輔	阿 部	悦 道	山 口	融 堂						

《解 説》

山田流祖山田検校作曲、中歌曲七曲の一つで山田流箏曲の代表的な名曲。歌詞は、江の島に詣でる道すがら初夏の江の島海岸の景色をうたい、弁財天の音曲守護、富貴自在、寿命長久といった恵みをたたえている。十七絃は四代萩岡松韻の手付。抜粋で演奏いたします。

1 箏	残 間 美 樹	半 谷 佳 香	
2 箏	五十嵐 く み	辻 雅楽浩	
3 箏	遠藤 雅楽佳衣	中 島 智恵子	
17 絃	阿部 雅楽扶美		
三 弦	長 岡 幸 枝	渡 辺 優 子	秋 元 和 代
尺 八	村 瀬 惺 山	小 玉 珠 山	米 澤 武 山
	澤 井 仁 山		

《解 説》

第3部 三絃2部 17絃 尺八2部に分かれての編成。残光とは星が煌きはじめた日没後の空に残っている太陽のこと。太陽のような力強さと、無限に広がる宇宙のような美しさの両方を表現した曲。

一部	遊 座 芳 山	千 川 迪 山	岡 田 篠 山
	新 田 統翔山	渋谷 統 桜	浜上 芳勝山
二部	猪 口 清 山	吉 本 啄 山	市場谷 昂 山
	安 藤 綉 山	中 田 昂恭山	
指揮	米 田 統 山		

《解 説》

幼い頃宝物だった万華鏡。のぞきながら回すと、見たこともない模様が次々と現れます。幼心に映った万華鏡の美しい世界を表現した、楽しいリズムの曲です。

箏 松 井 恵 子 山 下 真優美 齊 藤 道 子
 三弦 山 田 正 樹 菊 池 千津子 藤 澤 文 子
 尺八 富 田 普 山 松 井 恵 山

《解 説》

梅、松、竹という吉祥の象徴を織り込んだ三部分からなる歌詞の各歌の間に手事を挿入した祝儀曲です。

箏 明 正 雅紫盈 小 崎 雅紫奈 執 行 雅紫暢
 鷹 薺 拓 弥
 三弦 平 川 萩 恒 桐 生 雅紫優 板 谷 雅紫裕
 中 野 雅紫悠 清 水 雅紫寿 迫 雅紫花
 尺八 見 延 鈴 鳴

《解 説》

この曲は、山田流謡物ふうの三曲合奏曲である。曲の内容は、この詩が持つ雄大な雰囲気を生かして変化に富んだ曲と成っている。昭和12年作曲

箏本手 國 澤 秀 一 國 澤 秀 磨 大 友 有 子

箏替手 國 澤 恵理子 河 原 夏奈子 飯 澤 露 子
 齊 藤 真 美

尺八 横 山 悠 山

《解 説》

土井晩翠の詩集「天地有情」に収載された「はるのよ」を歌詞として大正三年(1914)春に、歌と箏による手事物として作曲された。箏の替手と尺八は後年つけられたものである。



北海道三曲連盟感謝状授与式

感謝状受賞者

札幌市 若菜会 鈴木 雅楽裕

新都山流札幌幹部会 森 田 楼 山

旭川市 生田流正派 土 田 雅 櫻

宮城社絃音会 鈴木 悦 子

宮城社絃音会 伊 藤 宏 美

宮城社絃音会 井 上 弘 美

創明音楽会 富 岡 己砂子

北見市 正派北見会 林 雅久美

第一箏 狩 野 雅美都 日小田 寿美春 小山内 雅楽穂
宮 武 井嘉蘭

第二箏 小 林 寿美雅 山 口 井教蘭 江 口 井禮蘭

尺八 日小田 衡 山 菊 地 由 山 河 合 妙 山

《解 説》

この曲は昭和40年9月に野村正峰により作曲されたもので、箏二部と尺八の編成となっております。歌詩は島崎藤村の詩集「若菜集」の「草枕」より抜粋し、荒涼たる東北の原野をさすらう孤独な旅人の心を曲想とした歌曲です。

第1箏 田 縁 泉千珂 岩 田 明佑香 吉 田 小 春
鈴 木 心 菜

第2箏 勝 矢 花 奥 山 柚 南 南シャンティ蓮花
細 山 玲 奈

《解 説》

花のように降る雪「雪はな」を二箏で表現します。
時にはかなく、時に激しく舞う雪の姿を二つの箏の掛け合いや、強弱、テンポの変化などで雪がもつ様々な情景を描いています。
この演奏でゆきはなの美しさを感じていただきたいです。

I 箏	辻	孝	子	宮 田	かよ子	榎	澄	子
	高	橋	雅楽都		雅美寿		伊 澤	雅美恵
	柳		雅泰幸					
	越	智	香 苗		本 間 郁 子		小 川	八 重
II 箏	財	原	良	森 谷	郁 子	宮 本	寿	子
	田	丸	三		雅千佳		林	雅久美
	及	川	雅 咲		早 枝 松 さえ子		大 野	緑
17 絃	赤	坂	彩 子	平	野 式 子	長	谷 川	仁 美
三 絃	柴	田	雅 寿	内 田	雅 聖	高	橋	雅 英
	船	橋	雅文音		柴 田 雅歌葉		酒 井	雅寿枝
尺 八	菅	原	翔 山	原	美 夕 山	藤	井	桂 山
	中	西	紺 山		唯 野 艦 山		南	美 櫻 山
	小山田	理 恵			柴 田 範 潤			

《解 説》

吉澤検校の名作「千鳥の曲」をモチーフにし、箏二部、17絃、三絃、尺八の五重奏曲として作曲

原曲のメロディやフレーズを上手く使いながらリズムをクロスさせ、それぞれのパートがメロディを奏でられる様、配慮した。

曲中、千鳥とは全く異なる各パートのソロ部分を少し設け、アクセントを付け、ソロの最後は、箏パートが再び「千鳥の曲」を匂わせ合奏へとつながります。曲の終わりは、やはり「千鳥の曲」の終わりの旋律を選び、締めくくりました。

本手	中 村 胡 道	橋 田 雄 道	吉 川 哲 平
替手	馬 場 雅 輔	阿 部 悦 道	山 口 融 堂

《解 説》

京都で、祇園祭の時に出る山車の先導を、明暗寺の虚無僧が務めた。
そして町々を廻り終わって、帰る時、即ち「下がる時」に吹いた曲と云われている。

箏	鈴 木 雅楽裕	中家 雅楽公美	城石 雅楽寿扇
	水 田 雅楽峰	板谷 雅楽泰寿	石 川 雅智都
	山 本 雅祁佳	高 橋 雅楽儷	増 田 雅楽薫
	虎 尾 雅 聖	佐々木雅楽寿嘩	高杉 雅楽雪鶴
	長谷川 雅楽雅	飯村 雅楽悠絵	竹形 雅楽菜理
三絃	畑山 雅楽智都	石 川 雅楽囀	田中 雅楽幸悠
	本 間 雅楽豊	対馬 雅楽馥優	柴 田 雅楽渚
	穴田 雅楽郁美	平 野 雅楽祥	佐 藤 雅 則
	久保 雅楽史瑞	中西 雅楽明希	

《解 説》

謡曲『松虫』の最後の部分を歌詞として、NHKの委嘱により1959年に作曲された。歌詞が虫の声を織り込んでいるのに対し、器楽の方も邦楽伝統の「虫の合方」と呼ばれる音型の他に、色々な虫の鳴き声を音型化して取り入れており、「虫づくし」が特徴となっている。

箏	村 上 雅楽幸 晴山 雅楽優美	小笠原 雅幸雪 菊吉川 栄 花	赤 石 晴鶴智
三弦	山 崎 雅 薫	菊 畠 栄 春	相 馬 雅美智
尺八	阿 部 滯 山 本 田 洵 山	福 原 鷗 山	池 田 倅 山

《解 説》

三曲合奏であるが、従来の伝統音楽を守りながらも宮城道雄独創とも言うべき巧妙な旋律の組合せとなった曲です。

(京みだれ)	舟 生 武美恵	小 野 武由喜	浦 川 日 向
(みだれ)	斎 藤 武幾久	板 倉 武 啓	浦 川 緑

《解 説》

京都で弾き継がれてきた「京みだれ」。「みだれ(八橋検校 作曲)」と同じ平調子で奏され、二段からはつかず離れずの手で重厚な「みだれ」に、華やかさを添えている。

箏	金子 美寛勢	末 武 美桃勢	中 川 美清勢
	富 室 美明勢	川 上 美久勢	小 澤 菜津美
	棚 橋 舞	五十嵐 美八勢	
三絃	山 内 美史勢	村 上 美華勢	金 子 寛栄勢
小鼓	望 月 左喜佳		
太鼓	堅 田 城久二		
尺八	石 塚 琇 瑛	五十嵐 良 山	山 田 香 山
	熊 谷 遊 山	須 郷 藤 山	松 村 芳 山

《解 説》

昭和三年、昭和天皇御即位の奉祝曲として作曲された。

歌詞は鶴の千年の長寿に事よせて御代の永遠を願ったものである。





旭川ジュニア

小中高の授業、課外活動、各種教室で尺八、箏、三味線を習っている子供たち。

旭川三曲協会では10年前より旭川市の依頼を受けて和楽器に触れる体験授業を行ってまいりました。

今回、第16回北海道三曲連盟定期演奏会に旭川ジュニアを招待し、演奏していただき三曲合奏(尺八、箏、三弦)の楽しさ、素晴らしさ、難しさを体験してもらう場を提供し、古典芸能のジュニアの育成に取り組んでまいります。

北海道三曲連盟定期演奏会
実行委員長 五十嵐 良山

旭川三曲協会 会長 石塚 琇瑛

事務局 小林 恵子

旭川市8条通24丁目 TEL 0166-31-8504

表紙写真提供 札幌 門田 童山
日本尺八連盟北海道支部